

2022年度（令和4年度）に向けた構想【法人事業計画プレゼンテーション】

【令和3年度事業実績】

➤ショートステイ翠風開設

- ・ウッドショック下における木造建築の実現
- ・全館WiFi、ICT・介護ロボット・介護機器・IoT化
- ・既設10床と合わせて計30床に

➤デジタルテクノロジーの活用促進

- ・LIFEへのデータ提供、フィードバックの活用（特別養護老人ホーム・デイサービスセンター）
- ・介護ロボット等の増設（J-PAS、Neos+Care、安心ひつじα等）
- ・新たな機能訓練、介護予防に向けた取り組み（モブ測・モトレ・HURスマートタッチ・Zoom等）
- ・オンラインの活用促進（会議・研修・面会・見学・面接・取組報告・ホームページでの公開等）
- ・全介護現場にインカム完備
- ・見守り支援機器（介護ロボット）使用可能エリアの拡張（特別養護老人ホーム・本館）
- ・情報伝達、情報共有の促進（VPNを用いたNASの外部接続・Eメールの活用促進等）
- ・各種実証事業等への協力（外部・他業種・産官学連携）
- ・「みえ介護フェア2021」への参画（2018年から4年連続）

➤その他

- ・外国人介護人材の雇用（特定技能）
- ・三重労働局 令和3年度安全衛生に係る優良事業場「安全衛生努力賞」受賞
- ・上記にかかる情報発信及び新聞社等からの取材 など

☆参考① 大学教授（意見交換時のご発言）

- ・評価判定のためのデータ取得は、測定者によるばらつきがなく、数字で示せるもの（デジタル測定によるデータ）が最もよい。

三十三ピックス（2021.4）

個々人の身体計測データに基づく健康管理個々人の身体状態に合った運動方法を、どのように見つければよいのでしょうか？（略）

日常的に身体の状態を簡便に計測する方法として、最近、腕時計型またはリストバンド型のスマートウォッチが注目されています。超小型センサとコンピュータを内蔵しており、心拍数、移動距離、距離歩行数、睡眠時間や睡眠の質、消費カロリーなどが計測でき、24時間継続して計測データが得られ、スマホやPCにデータを送信できる機能は大きなメリットです。

これらの機器で計測した個々のデータは、医療用機器に比べると精度は劣ります。しかし、多種類のデータの経時的な変化を統計的に判断するシステムを開発すれば、効果的な運動方法を見つけ出すことは容易です。

データに基づいた生活習慣の改善

あなたはデータに基づいた健康管理をしていますか？健康診断で、良くない検査データが出た場合には、生活習慣の改善、特に効果的な運動が必要です。また改善した効果がデータで把握できないと、運動を継続させることは難しいと思います。読者の皆様には、データに基づいた生活習慣の改善を目指していただきたいと思っております。（鈴鹿医療科学大学 医用工学部 医療健康データ工学学科 教授 鶴岡 信治）

☆参考② 老施協デジタル投稿内容

(「今後10年の介護業界の変化」について
のコメント)

- ・ 特養を運営されている理事長の方の2021.6.2の投稿
『介護は人なり』であるが、『人ありき』では無い事を意識すべきだと思う。
- ・ 特養の介護職員の方の2021.6.17の投稿
今、現場で従事する私たち一人ひとりの志に比例した変化をしていると思います。

☆参考③ モトル通信 -Vol.021- 2021.04.28

孤立状態の回避と幸福感向上には相関があり、デジタルの重要性が高まる

コロナの影響によって、これまでの親戚、地元、社会とのつながりといった従来型のコミュニティを基盤としてきた生活が激変し、個々人の「社会的孤立リスク」が高まっています。

三菱総合研究所では、これを「つながり力」と定義し、2020年に実施した調査では、「友人・知人（家族を含まない）と2～3日に1回以下しか話をしない」という社会的孤立状態にある人は19.6%、孤独感が高い人も24.7%に達していました。孤独感と同居家族がいても必ずしも解消されず、親世代と同居している人（三世同居等は除く）でも孤独感が高い人が34.8%に達しています。このような人々は、「つながり力」が低く、より一層孤独を感じていると思われます。

この孤独感と幸福感には負の相関があり、従来型のコミュニティが主たるつながりの場になっている人にとってはこのつながり力をいかに高められるかが幸福感の増加にもつながります。

人によっては、このリスクがむしろ低くなる可能性があることがわかりました。在宅勤務に代表されるように、デジタル技術の高度化と活用によって、必ずしもリアルなつながりがなくともコミュニケーションがとれ、あらたなコミュニティが数多く生まれています。これらをうまく活用している人たちがいます。デジタルだからこそ、自分の嗜好にあわせて同時に複数コミュニティに参加でき、そこからの脱退も容易です。アバターと呼ばれる自分の分身が参加することであたかも複数の人格を持つようなことが可能となってきました。

デジタルは今後の孤立状態回避において重要な技術であり、個々人のつながり力、すなわち幸福感により大きな影響を与えますと考えます。つながり力が低いとって一面的にとらえるのではなく、自分の趣味、趣向、経験等、自分が必要とするコミュニティに参加しやすいようなデジタルの活用が、あらたな社会基盤の安定と成長につながると期待します。以上

(文/ (株) 三菱総合研究所イノベーション・サービス開発本部 チーフ事業開発マネージャー 木田 幹久)

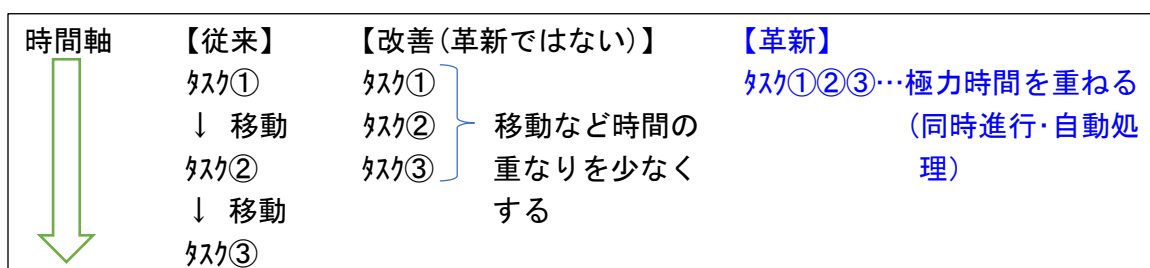
—当会の介護現場における革新的取組の考え方—

➤一般的な「革新」の定義：

- ・習慣、制度、組織、方法などを改めて、新しくすること。現状を変えること。改新。変革(コトバンク)
- ・イノベーション 新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化(ソーシャルインパクト)をもたらす自発的な人・組織・社会の幅広い変革を意味する。つまり、それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすことを指す(「Wikipedia」)

➤当会の介護現場における「革新」の定義：

- ・各種テクノロジーを通常的使用方法から、さらに一步踏み込み(工夫し)或いは複数の機器、機能を組み合わせて使用し、新たな価値を創造すること(求める価値は、生産性向上・働き方改革と質の向上の両立)



(1) マルチタスク

- ①デュアルディスプレイ(2画面)・トリプルディスプレイ(3画面)・デュアルデバイス(複数端末)使用
- ②GoogleDocument等を活用した文書作成(複数人による同時入力・事務処理)
- ③排泄予測デバイスDfree、見守り支援ホット眠りSCAN・Neos+Care、介護ソフトBlueOceanNoteⅡの組み合わせ
 - ・夜間等における適切な排せつ支援タイミングの判断
 - ・センサー感知データの介護ソフトへの自動記録
- ④測定血圧(デジタル血圧計)、測定体温(非接触式デジタル体温計)の介護ソフトへの自動記録
- ⑤複数のオンライン研修等への同時出席 など



(2) NAS や E-mail を使用したデジタル文書の共有、Docuworks 文書の NAS 内フォルダへの自動保存

(3) Zoom、ウェアラブル端末を用いた地域における介護予防教室

(4) ウェアラブル端末、アプリを用いた体力テスト結果、機能訓練結果のリアルタイムレポート出力



(5) モバイルWiFiルーターの活用

- ①事業場外からのオンライン会議への出席、研修受講
- ②事業場外からのNASへのアクセス(VPNとの組み合わせ)
- ③居宅介護支援：利用者自宅におけるオンラインサービス担当者会議の開催(記録を含む。)



(6) 事業場外からのデジタル勤怠管理システムへのアクセス(クラウド、アプリ)

➤当会において現場革新に該当しないと考えるもの

- ・PC、タブレットPC、タブレット、スマホ、ウェアラブル端末の単なる使用
- ・部署間メールによる情報伝達、共有
- ・介護ソフトによる介護、看護、介護支援記録、介護報酬請求(LIFEを含む。)
- ・介護ホット、介護機器、アプリの単体での使用、通常使用
- ・オンラインアプリの使用(カンガ-アプリ等との連携を含む。)
- ・NASの使用
 - ・インカムの使用
- ・外部でのホームページ更新作業
 - ・ペーパーレス化 など
- ・ICタイムカードの使用
 - ・インターネットバンキング
- ・ソフト食の調整
 - ・スチームコンベクションオーブン、プラスチックの使用
- ・音声入力ソフトの使用
 - ・非接触式デジタル体温計、サーマルカメラの使用



時間軸	【従来】	【改善(革新ではない)】	【革新】
↓	タスク①	タスク①	タスク①②③…極力時間を重ねる。 (同時進行・自動処理)
	↓ 移動	タスク②	
	タスク②	タスク③	
	↓ 移動		
	タスク③		

(1) マルチタスク

- ①デュアルディスプレイ(2画面)・トリプルディスプレイ(3画面)・デュアルデバイス(複数端末)使用
- ②GoogleDocument等を活用した文書作成(複数人による同時入力・事務処理)
- ③排泄予測デバイスDfree、見守り支援ロボット 眠りSCAN・Neos+Care、介護ソフト BlueOceanNote IIの組み合わせ
 - ・夜間等における適切な排せつ支援タイミングの判断
 - ・センサー感知データの介護ソフトへの自動記録
- ④測定血圧(デジタル血圧計)、測定体温(非接触式デジタル体温計)の介護ソフトへの自動記録
- ⑤複数のオンライン研修等への同時出席 など



(2) NAS や E-mail を使用したデジタル文書の共有、Docuworks 文書の NAS 内フォルダ への自動保存

- (3) Zoom、ウェアブル端末を用いた地域における介護予防教室
- (4) ウェアラブル端末、アプリを用いた体力テスト結果、機能訓練結果のリアルタイムレポート出力



(5) モバイルWiFiルーターの活用

- ①事業場外からのオンライン会議への出席、研修受講
- ②事業場外からのNASへのアクセス(VPNとの組み合わせ)
- ③居宅介護支援：利用者自宅におけるオンラインサービス担当者会議の開催(記録を含む。)



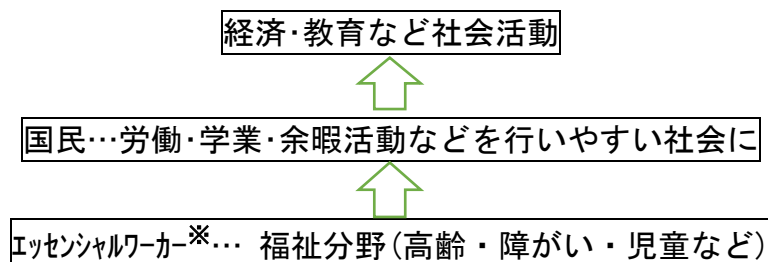
(6) 事業場外からのデジタル勤怠管理システムへのアクセス(クラウド、アプリ)

➤当会において現場革新に該当しないと考えるもの

- ・PC、タブレットPC、タブレット、スマホ、ウェアブル端末の単なる使用
- ・部署間メールによる情報伝達、共有
- ・介護ソフトによる介護、看護、介護支援記録、介護報酬請求(LIFEを含む。)
- ・介護ロボット、介護機器、アプリの単体での使用、通常使用
- ・オンラインアプリの使用(カンタ-アプリ等との連携を含む。)
- ・NASの使用
 - ・インカムの使用
- ・外部でのホームページ更新作業
 - ・インターネットバンキング
- ・ICタイムカードの使用
 - ・スチームコンベクションオーブン、プラスチックの使用
- ・ソフト食の調整
 - ・非接触式デジタル体温計、サーマルカメラの使用
- ・音声入力ソフトの使用
 - ・ペーパレス化 など



➤国民・社会の「福祉」に対する価値創造イメージ



※「生活を維持するために欠かすことができない業務に携わっている労働者」

【令和4年度事業計画目標(素案)】

➤良質の介護福祉サービスの提供に向けて

～介護福祉のよいところは守り、見直すべきところは“飛躍的な革新”を図る～

- ・重点項目(評価項目): 「人材確保」、「人材育成」、「現場革新:今ある介護基盤に機器をさらに連動させる(IoT化の促進・創出・革新)」
- ・方向性: 常に視野や思考は広く。新たな価値創造への可能性を見いだす。
～もうここからの道はない。介護福祉の未来をスタッフが切り拓いていく～



☆バックオフィス業務

☑物質的資源(システムの構築を含む)の投入により、スタッフの意識や環境を革新し、介護福祉サービスの質と生産性の向上を図る

- ・得られたデータを読み解く力を養う
- ・「走り」ながら「考える」ことが必要な時代
- ・VBA(マクロ)、Excel関数を用いた勤務表・送迎表等、ディクテーション機能(音声入力)の各部署での活用
- ・対面の意義や良さを理解した上で、オンラインを活用(情報の伝達・共有・連携・発信(外部・動画を含む)、会議・ミーティング、研修受講、面会・面談・見学・面接、テレワーク等)
- ・ウェアラブル端末、5G、AI等の現場活用の検討
- ・調査、研究、試行、実証、提案、産官学連携、講師等派遣の推進
- ・働き方改革とSX^(※1)(DX^(※2)を含む)、事業継続経営(BCM)



(※1) サステナブル・トランスフォーメーション

不確実性に備えた当会の中長期的なリスクと機会の双方を把握し経営に反映した持続可能モデルへの転換

(※2) デジタルトランスフォーメーション ITの浸透による生活の良化

☆専門的業務(フロントオフィス業務)

☑利用者、スタッフともに安全で、満足度の高いケアの実施

- ・自立支援、自律支援介護の実践とテクノロジーの融合
- ・オンラインゲーム・eスポーツ・メタバース等の活用や新たなデジタル・コミュニティ(地域社会)形成に向けたチャレンジ
- ・VUCA^(※3)の時代を乗り越える知識と柔軟な思考を兼ね備えた人材の育成



(※3) ビジネス用語

Volatility(変動性)・Uncertainty・(不確実性)・Complexity(複雑性)・

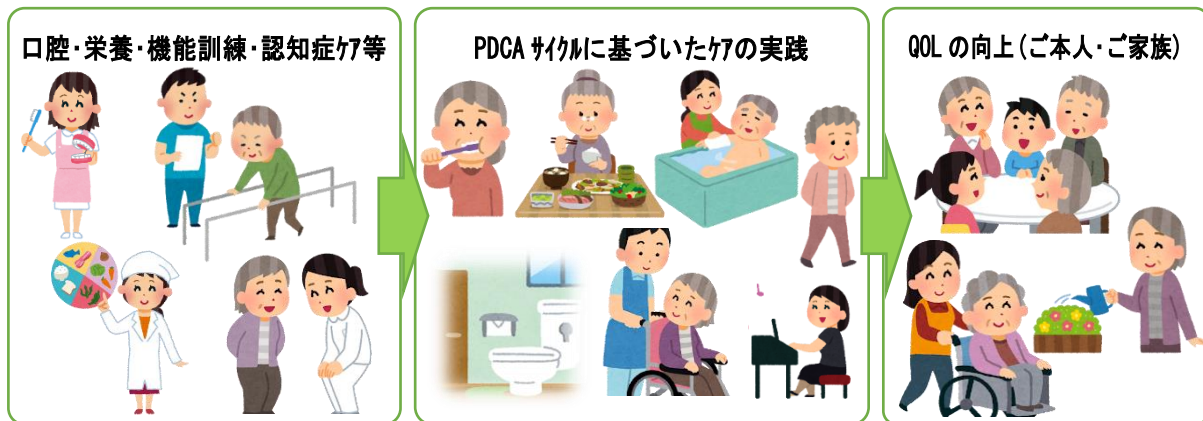
Ambiguity (曖昧性)の頭文字を並べたアクリム(複数の単語から構成された合成語の頭文字を繋げて作られた語)(「Wikipedia」)

- ・ 多職種・他産業との人的なネットワークの拡大 (スタッフレベル)
- ・ 外国人介護人材の雇用促進

☆その他

☑事業等の評価(経過報告・成果報告を含む。)

- ・ 「みえ福祉第三者評価」受審(特別養護老人ホーム)
- ・ 厚生労働省科学的介護情報システム「LIFE」の活用促進
- ・ 「みえ働きやすい介護職場取組宣言」の継続及び新たな認証等の取得検討
- ・ 実証等により得られた成果及び公表



■各部署計画の種

- ・ より多くの人にこれまで以上の価値(Value)を感じてもらうには、喜んでもらうには？
- ・ 当会のサービスを利用していることが一つのステータスになるには？利用者・家族の潜在的満足は？
- ・ 自宅、公民館、事業所等での介護予防教室の開催、オンライン等の活用による新たなコミュニティの形成、活動・参加の場を構築するには？
- ・ 共生型サービスを推進していくには？
- ・ Apple Watch のトランシーブ機能、オンラインゲーム、eスポーツ等は介護現場で使えるのか？
- ・ ホームページ等の記事に対するツイート(双方向のやり取り)をしていこう！
- ・ ホームページだけでなく、TikTok や YouTube への動画配信(バズる仕掛け)
- ・ 当会における「生産性向上」「働き方改革」の Step
 - 0 理念・方針の共有・浸透
 - 1 規則・規程の整備
 - 2 環境の整備
 - 3 人材の配置
 - 4 計画・実践・観察・評価・新たな展開
 - 5 情報発信(数は多いほどよい)
- ・ 「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり。されど財無くんば事業保ち難く、事業無くんば人育ち難し」(後藤新平(医師、官僚・政治家))